



平成 31 年 3 月 12 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 F F R I
代 表 者 名 代表取締役社長 鵜飼 裕 司
(コード番号：3692 東証マザーズ)
問 合 せ 先 常務取締役最高財務責任者 田 中 重 樹
(TEL. 03-6277-1518)

個別業績予想及び前期実績との差異並びに連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は個別業績予想を開示しておりませんが、個別決算における当事業年度の予想値が前事業年度の実績値から一定以上変動する見込みとなりましたのでお知らせいたします。また、最近の業績動向を踏まえ、平成30年5月15日に公表した平成31年3月期（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）の通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせします。

記

1. 個別決算における前事業年度の実績値と当事業年度の予想値との差

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前事業年度実績値(A) (平成30年3月期)	1,671	392	392	305	37.37
当事業年度予想値(B) (平成31年3月期)	1,648	310	312	109	13.35
増減額(B-A)	△23	△81	△80	△196	
増減率(%)	△1.4	△20.8	△20.4	△64.2	

差異の理由

関係会社株式の減損処理及び貸倒引当金繰入額の計上

連結子会社である FFRI North America, Inc. において、セキュリティ・プロダクトの販売が計画を大きく下回っていることから減損処理を実施し、関係会社株式評価損として88百万円を特別損失に計上する見込みです。また、これに併せて FFRI North America, Inc. が債務超過となったことに伴い、同社への貸付金に対して債務超過相当額28百万円を貸倒引当金繰入額として特別損失に計上する見込みです。なお、本件の関係会社株式評価損及び貸倒引当金繰入額は連結決算では消去されることとなります。

2. 業績予想の修正について

平成31年3月期通期連結業績予想数値の修正（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,828	316	316	204	24.96
今回修正予想(B)	1,650	277	278	192	23.47
増減額(B-A)	△178	△38	△37	△12	
増減率(%)	△9.7	△12.3	△11.7	△5.9	
(ご参考)前期実績 (平成30年3月期)	1,673	309	309	222	27.22

修正の理由

標的型攻撃等によるサイバー脅威増大に伴うサイバー・セキュリティ市場の活性化を背景に、最近ではセキュリティ・ベンダー各社より様々な製品やサービスが提供されてきております。これらは当社グループの製品と機能面・性能面で直接の競合関係とはならないものの、ユーザーにとっては選択肢が増えることで製品選定が複雑になることによる製品検討期間の長期化や、当社グループ及び販売パートナーによる当社製品の提案活動が及ばないユーザーで他社製品・サービスが採用されてしまうなどの市場競争が生じております。また、官公庁や大企業のようにサイバー・セキュリティの担当部門を持たないような個人・法人ユーザーでは、サイバー・セキュリティ対策の重要性に対する認識は広がっているものの、具体的な対策導入に向けた動きは限られており、今後の拡販にあたってはこれらのユーザー層への訴求が官公庁や大企業向けの提案に並んで重要となっております。当連結会計年度におきましては、特にユーザーの製品選定段階での案件停滞の影響が当社の想定以上に大きく、「FFRI yarai analyzer」などの製品が計画比で上振れしたものの、「FFRI yarai」の販売が計画比で下振れし、セキュリティ・プロダクトの売上高が当初計画に対して168百万円下回る見込みです。以上の結果、売上高及び利益が前回発表の数値を下回る見込みであるため、業績予想を修正いたします。なお、この状況を踏まえて当社グループでは「FFRI yarai」の機能の強化と追加をはじめ、戦略的販売パートナーとの連携強化や海外市場への製品OEM供給、NTTコミュニケーションズ株式会社との合弁会社設立等、様々な施策を実施しており、今後の売上拡大に取り組んでおります。

(注) 上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる場合がございます。

以上